

単相2線200V入力UPSを正しくお使いいただくための注意

コンピュータシステムおよび電源装置の対アース電位を正しく使用していただくために、交流入力電源の種類によりUPSとの接続を下表のとおり施工してください。

- ① 交流入力電源の調査
使用される交流入力電源が、表のいずれに該当するか事前に調査してください。なお、不明の場合はテスタなどで対地電圧を測定し、判定してください。
- ② 入力配線工事
表の“適合の可否”が、○または△となるようにUPS入力端子RおよびNへの接続線(相)を選択のうえ、配線してください。
a. 適合の可否○印は、非接地電源および一線接地電源の標準的な接続です。
b. △印は、UPS出力端子(2線とも)に対地電圧が生じている(過大でない)ため、これを負荷装置側で一線接地すると、電源短絡となるので注意してください。
c. ×印は、UPS出力端子の対地電圧が過大となり、負荷装置の故障の原因となります。また、負荷装置側での一線接地は、電源短絡となるので○または△に配線変更、もしくは出力側に絶縁トランスを付加してください。

	入力電源の種類	UPSとの接続		適合の可否	UPS出力対地電圧 注2		記 事
		R	N		U-G	V-G	
1 三相非接地電源		A	B	○	記事参照	記事参照	浮いた電圧のため対地電圧の値は不定 対地電圧出力 $V_{U-G} + V_{V-G} \approx 200V$
		B	A				
		B	C				
		C	B				
		C	A				
		A	C				
2 単相非接地電源		A	B	○	記事参照	記事参照	
		B	A				
3 三相接地電源		A	B	○	約200V	約 0V	1. 接地相は、UPS入力のN端子側に接続してください。 2. N端子が接地相でない場合は (1)非同期運転時にUPS出力の対地電圧が上昇します。 (2)UPS出力側を一線接地すると電源短絡になります。
		C	B	×	約200V (約400V)	約200V	
		A	C	×	約 0V (約400V)	約200V	
		C	A				
		B	C				
		A	C				
B	A						
4 単相接地電源		A	B	○	約200V	約 0V	
		B	A	×	約 0V (約400V)	約200V	
5 中間接地電源 単相3線		A	B	△	約100V (約300V)	約100V	1.非同期運転時にUPS出力の対地電圧が上昇します。 2.UPS出力側を一線接地すると電源短絡になります。
		B	A				
6 中間接地電源 三相4線		A	B	△	約120V (約320V)	約120V	
		B	A				
		B	C				
		C	B				
		C	A				
		A	C				
7 中間接地電源 三相3線		A	B	×	約100V (約380V)	約180V	1.非同期運転時にUPS出力の対地電圧が上昇します。 2.UPS出力側を一線接地すると電源短絡になります。
		C	B				
		B	A	△	約100V (約300V)	約100V	
		C	C				
		A	C				
		C	A				

注1. 上表の電圧値は、入出力電圧が200Vの場合の値です。

注2. カッコ内は非同期運転時の最大値を示します。

200V入出力UPSの入力電源として、三相から单相2線200Vを引く場合の注意点

※下記は3相3線の一例です。実際の線色・電源種別をご確認ください。

